

文庫あれこれ◆今日13日、膝に本を置いて、でも2時間余、東海道線～伊豆急線、車窓を様々に桜木がすぎゆくのを、幸せな気持ちで眺めて来ました。畑の中に1本、八方下方に手を広げて咲いている桜、土手の桜並木、街の通りの両側に咲く桜、遠くに見える山の薄緑の若葉と一緒にあってポーッと霞む桜・・・伊豆高原の駅を降りて文庫に向う桜並木も今が見頃（毎年来ていても桜並木の満開は本当に久しぶり）。文庫の庭の息子の桜も・・・日本の春爛漫。◆欠員が出たからと、誘われて北海道は旭山動物園に1泊2日で行って来ました。秋吉父子（昨年早稲福岡に帰郷した）が毎夏のように訪れたところ。私は動物園のある旭川に元同僚が住んでいるのを思い出し、ちょっと団体行動の間合をぬって10数年ぶりに会いました。そして彼女がすごい読書家だということも思い出し、文庫便りに感想文を載せてもらう約束をゲット。今月号から時々掲載します。私は子どもの本を読むほうが多いのですが、世界の知らないところを、本にあれば、なければその土地の地図を開いて、想像を膨らませて読みますが、彼女の読み方も楽しそうです。文庫でもそんな方がいるかも、ですね。◆三島出身の大岡信さんが亡くなりました。朝日新聞「折々のうた」では、すいぶん楽しませてもらいました。文庫にも2冊ありますが、今回、ご本人の自選集『大岡信詩集 自選』（岩波書店）を入れました。◆昨日、浅田真央さんが引退会見をしました。さわやかな絵になっていましたね。（実は彼女の競技の度にコーヒー断ちをした私でした。）孫の旅立ちを仰ぎ見る心境。◆4月は旅立ちの時。文庫のみんな、それぞれの場所で元気に羽ばたいてね！◆今日はよいお天気でした。でも週末が心配。◆5月はアートフェスティバルに参加しませんが、「若葉のころのおはなし会」はやりませう。今年は文庫の会員だけ。応援に来てください。（西村）



ペンギン・ウォーク (17.4.1 旭山動物園)

★開館日は通常は 第3日曜と前日の土曜です★

- ◆4月は通常15(土)、16(日)の両日
  - ◆5月は**変更第2土日を挟んで長めの開館** 12日(金)～16日(火)まで
    - ☆若葉のころのおはなし会☆
    - 13日夕方→大きい人向け
    - ご都合によりゲストは急きよ不参加。
    - 今回は、会員の吉川伸子さんの朗読とおはなし沙羅のメンバーが頑張ります。
    - ぜひ、聴きにおいでください。♥
    - 14日午前→小さい人向け
    - ゲスト：代田みち子さん(科学遊び)
    - 楽しいふしぎな科学遊び、親子で楽しんで！
  - ◆6月は通常17(土)、18(日)の両日
  - ◆7月は通常15(土)、16(日)の両日と16日夕「第17回海の日はおはなし会」(於：伊豆高原駅広場クスノキの下)
  - 17日午前「第11回開館記念子どものためのおはなし会」(於：沙羅の樹文庫)
  - ◆8月は通常第3土日を挟んで長めの開館 18日(金)～22日(火)まで
- 文庫の時間  
土曜日は午後2時～5時、日曜日は午前10時～午後3時  
☆毎月開館日の日曜には、**子どものための小さなおはなし会**があります。  
午前10:30～11:00  
★おはなし沙羅の勉強会★  
毎月開館土曜日 11:00～13:00

駐車について  
駐車可能な場所：文庫駐車場3台・サウスフィールドさん(駐車場が空いているとき)・グラナダさんの昼休み時間(14:00～17:00)・文庫下2軒先左折行き止り道路：上記がいっぱいの場合、スタッフに声をかけてください。(沙羅の樹文庫)

沙羅の樹文庫 0557-51-3737  
<http://www.saranokibunko.com>

沙羅の樹文庫だより



信成社刊

海はまだ

大岡 信

海はまだ冷たいか  
あ 風はまだ燃えていないか  
けれど光はもう身軽な豹だし  
雲の指は思い出の入り江をかきわける

人間の内側で  
春が肌をみがきはじめると  
すこし遅れて  
地球にまたも  
緑色がかえってくる

(大岡信詩集 自選)

2017年4月に読んだ本についての感想

2017.4.13 by 森林浴

『ピニール傘』 岸政彦著 新潮社刊 2017年2月 第2版

昨年5月の感想文に、この人の本『断片的なものの社会学』(紀伊国屋じんぶん大賞2016を受賞した作品)の感想を書いた。そしたら、今年の春の芥川賞の候補にこの著者の新作『ピニール傘』が入っているということで、またこの人が脚光を浴びた。(この本には、他に『背中の月』という作品も入っている。)

『断片的なものの社会学』は人のしゃべった言葉をそのまま録音記録した作品で、たまたま、昨年ノーベル賞を貰ったスペトラーナ・アレクシェービッチの『セカンドハンドの時代』と同じ書法を使っていたのだが、今作品は普通の小説の書き方(登場人物の告白方式)。

内容は絶望的に虚しい若い男と女の乾ききった生活記録。そこにあるのは、故郷の田舎を飛び出して大都会・大阪のありふれた下町に生きる凡庸な男女の「ただ何となく生きています」という虚しさや孤独感にあふれ、佻しくカサカサに干からびた人生の記録である。

一番出て来るのが、場末のワンルームマンション、情性のような男女のつながり、希望のない最下層の労働、コンビニ、インスタント食品、そして500円のピニール傘など。大阪弁「しゃーないな」が効いている。

『尖閣列島—釣魚諸島の史的解明』 井上清著 第三書館刊 2012年10月初版

この本の初版になる京大教授の井上清の『尖閣列島』は、歴史を徹底的に調べた結果、これ等の島は日本の国のものではなく、中国の一部であると結論づけるものである。

この本は何と1972年(45年前)に刊行(現代評論社)されてその後は絶版になっていたが、1996年に右翼団体が尖閣諸島に灯台を作って日中間に荒波が立つ事件が起こったので、新たに第三書館版が出たという。(右翼の石原慎太郎と西村慎吾が尖閣上陸を宣言した。)

石原は土壇場で逃げて右翼から避難轟轟になったという。)その後2012年民主党政権の時代に、また慎太郎が「自国の領土に上陸して何が悪い」と一騒動起こし、当時の野田首相(民主党)の慌てた対応—ある日本人の個人所有だった島を国が買収—も響いて、中国側で日系のスーパーが略奪されるなどの大騒ぎとなった。

さて、この本は1972年の原板に、著者をずっと支持してきた野田峯雄が、読者が理解できるように、本文の内容の中核部分を「まえがき」として一番前に付けたもので、この「まえがき」を読めば井上教授の主張がよくわかるようになっていて便利。井上教授の主張は明確、私は尖閣諸島が日本の所有する列島である、というわが国の主張は信じられなくなりました。第三書館なんて小さな出版社なんでしようし、こういう本はなかなか売れないからでしょうが、この本は各ページを読むのに、本を左右に引き裂くように開かないと字が全部読めないような小さな本で、内容が立派なのに本の作りはとも侘しいものです。ふと石原慎太郎が最近幻冬舎から出版した『天才』という田中角栄を称えるの本を思い出しました。立派な表装の大きな版ですが、なんとその本の白いページに文字の印字の部分は半分くらいしかない。書くことがあまり無かったのでしょうか。—何と贅沢で傲慢な。暫くはベストセラーになったらいいが、こんな本をよく1500円も出して買う人がいるものですね。Amazonで、この本買って読んだ読者の感想をみても、どれも悪口批評(けなし)の氾濫です。—本もいろいろあるものです。

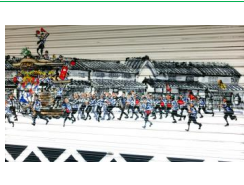
『アランの「幸福論」』アラン著 笹根由恵 翻訳 株)ウエッジ発行 2016年12月 初版

昔学生時代に読んだ記憶があるのだが、今度改めて読んでみると、どれも何だか平凡で単調。ですが、実に実用的なすぐできるアドバイス。恐れ入りました。25頁…『恐れは病氣』:「病氣の真似をするのではなく、健康のふりをするべきでしょう。」はい、はい。38頁…『あらゆる心の病やかかったばかりの体の病氣を治すために必要なのは、体を柔軟にすることと運動することです。』 はい、はい。

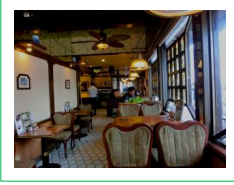
伊豆高原だより 外伝

夫さんの3月ちよい旅から

岸和田・朝ドラ<カーネーション>の巻 NHKも町おこしに一役?!



上左は、「1時間に1度たんじりのお囃子がなぐり時計。き出すからくり時計。下は、岸和田の家並み。左は、だんじり祭りの線(虫眼鏡でどうぞ)。



上: コシノ3姉妹のお母さんが通った喫茶店と右: 魚屋(夫が買ったきたお皿1杯150円の地物・岸和田産新鮮カタクチイワシ、美味でした。)



## 絵本

『マリオネット』(カプリエル・バンサン作 BL出版) ID12373  
 『エミール君頑張る』(トミー・ウンゲラー作 今江祥智訳 文化出版局) ID12367  
 『魔術師の弟子』(バーバラ・ヘイズンぶん トミー・ウンゲラーえ 評論社) ID12368  
 『ラシーヌおじさんとふしぎな動物』(トミー・ウンゲラー作 評論社) ID12400 以上ロングセラー本  
**以下新刊おすすめ本**  
 『このさま一年生』(長野ヒデ子著・イラスト あすなろ書房 2017) ID12374  
 『だちょうさんのたまご』(谷口國博文 村上康成絵 ひさかたチャイルド 2016) ID12370  
 『くいしんぼうシマウマ』(ムウエニエ・ハディシ文 アドリエンヌ・ケナウェイ絵 西村書店 2016) ID12371  
 『こわい、こわい、こわい?』(ラフィク・シャミ文 カトリーヌ・シェラー絵 西村書店 2016) ID12372  
 『まんげつの夜、どかねこのあしがいっぽん』(朽木祥作 片岡まみ子絵 小学館 2016) ID12380  
 『夢金(古典落語『夢金』より)』(立川談春文 あかね書房 2017) ID12377 ※落語好きの君に  
 『あからんーことばさがし絵本』(西村繁男著・イラスト 福音館書店 2017) ID12370  
**よみもの**  
 『落語少年サダキチ』(田中啓文著 福音館書店

2016) ID1237 ※落語好きの君に  
 『日小見不思議草紙』(藤重ヒカル作 飯野和好絵 偕成社 2016) ID12383  
 『駅鈴』(久保田香里作 くもん出版 2016) ID12381 ※以上2冊、時代物好きなあなたに  
 『金色の流れの中で』(中村真里子作 新日本出版社 2016) ID12382  
 『見てる、知ってる、考えてる』(中島芭旺著 サンマーク出版 2016) ID12398 ※request  
 『メリーメリーおとまりにでかける』(ジョーン・G・ロビンソン作絵 岩波書店 2017) ID12375  
 『世界一の三人きょうだい』(グードルン・メクス作 はたさわゆうこ訳 徳間書店 2016) ID12369  
 『ゆうかなな猫ミランダ』(エレナー・エステイス作 アーティソーニ絵 岩波書店 2016) ID12384  
 『ボノボとともに一密林の闇をこえて』(エリオット・シュレーファー作 福音館書店 2016) ID12385 ※大人にも読んでほしい  
 『愛をみつけたうさぎーエドワード・デュレインの奇跡の旅 新装版』(ケイト・ディカミロ作 ポプラ社 2016) ID12386  
 『カルペパー一家のおはなし』(マリオン・アピントン作 ルイス・スロボトキン絵 徳間書店 2016)  
 『紅のトキの空』(ジル・ルイス作 さくまゆみこ訳 評論社 2016) ID12399  
 『11歳のバースデイ 1 あたしだけのスマイル・リップ』(井上林子作 くもん出版 2016)

ID12391 ※以下5冊、新5年生に。  
 『11歳のバースデイ 2 わたしの空色ブルー』(井上林子作 くもん出版 16) ID12392  
 『11歳のバースデイ 3 おれのバトルデイズ』(井上林子作 くもん出版 2016) ID12393  
 『11歳のバースデイ 4 ほくらのスマイル・リップ』(井上林子作 くもん出版 2016) ID12394  
 『11歳のバースデイ 5 ほくたちのみらい』(井上林子作 くもん出版 2016) ID12395

## 科学絵本・読み物

『これから戦場に向います』(山本美香著 ポプラ社 2016) ID12390 ※亡くなった作者の世界を見てください。  
 『自然のふしぎ大図解ーナチュラール・ワールド』(アマダ・ウッド著 偕成社 2016) ID12388  
 『脳からだー運動、感覚、思考のみみつ』(ステイブ・パーカー著 西村書店 2016) ID1238  
 『つちはんみょう』(館野鴻著・イラスト 偕成社 2016) ID12396  
 『かえるふくしま』(矢内靖史写真・文 ポプラ社 2016) ID12397

## 参考資料

『松居直と絵本づくり』(藤本朝巳著 教文館 2017) ID12379  
 ★ほかにも広瀬おばさんからのよみもの、たくさんあります。  
 4月は絵本もよみものも、子どもの本をたくさん、入れました!! 16年出版のおススメがたくさん!! おかあさん、いっしょに読んでみてください。

## 17年4月に入った大人の本

## フィクション

『鬼殺し 上・下』(甘耀明著 白水社 2017) ID17031~2  
 『素敵な日本人』(東野圭吾著 光文社 2017) ID17033  
 『切腹考』(伊藤比呂美著 文藝春秋 2017) ID17034  
 『モーターサービス』(三田完著 新潮社) ID17036  
 『火夜』(増田みず子著 新潮社) ID17037  
**エッセイほか**  
 『羊飼いの暮らしーイギリス湖水地方の四季』(ジェームズ・リーバンク著 早川書房 2017) ID17030  
 『大岡信詩集 自選』(大岡信著 岩波書店) ID17035  
 『本当は怖い漢字の本』(出口汪監修 水王舎 2017) ID17028 ※request

## 新書・文庫

『キャスターという仕事』(岡谷裕子著 岩波新書 2017) ID17029 ※request  
 『一九八四年[新訳版]』(ジョージ・オーウェル著 高橋和久訳 早川書房) ID17038 ※また話題に  
**寄贈・単行本**  
 『老後も進化する脳』(リータ・レーヴィ・モンタルチーニ著 朝日新聞出版) ID17027

## 寄贈・文庫

『院内刑事』(濱嘉之著 講談社+α文庫 2017) ID17018  
 『声なき蝉 上・下(空也十番勝負青春篇)』 ID17025、26

## 読む楽しみを~北の国から①「蜜蜂と遠雷」(恩田陸著 幻冬舎 2016.9) from 亜子

## —違ったタイプの才能に

## 点数はつけられるのか?—

これは156回の直木賞受賞作。直木賞だからといって、最近特に読むことはしないのですが、この物語は、浜松ピアノ・コンクールを、著者が長年にわたり取材を重ねて書いたことを知り、ぜひ読んでみたくて買い求めました。上下2段のかなり分厚い本ですが(507ページもある)、読みだす止まらなくて二日間で読了。ピアノを少しでもかじったことのある人には、たまたま楽しく本だと思えます。ピアノを知らなくてもききと楽しめる青春小説でもあります。

まだ若い三人の天才ピアニスト、マサル、亜夜(じん)が、コンクールを勝ち上がっていく物語で、一次、二次、三次予選、本選と長丁場の緊張の連続の日々を、ピアニストとしての実力と個性を兼ね備えた魅力的な審査員たちの駆け引きも交えながら丁寧に追います。

タイトルや表紙画からすると、蜜蜂に関係のある塵が主人公か、と思いましたが、実は亜夜が主人公のようです。亜夜の成長物語であり、そしてその成長過程を楽しむ本でもあるのですが、やはり塵が魅力的です。塵のピアノに関するけた外れの思考、知識、自由な想像力、曲を組み立てていく技法に非常に魅力を感じます(塵はまるで「風の又三郎」のようです)。マサルは、優等生の絶対王者として描かれていてあまり個性がありません。本の最初の頁に一次、二次、三次予選、本選の

課題曲のリストがレストランのメニューのように提示されています。かなり、リストに出てくるCDを持っていたので、これを当てはまる小説場面で聴きながら読みました。一次予選ではバッハの「平均律」、二次予選ではリストの超絶技巧練習曲から「鬼火」や「メフィスト・ワルツの1番・村の居酒屋の踊り」、本選ではかなり長い曲ばかりですが、プロコフィエフの「ピアノ協奏曲2番、3番」やバルトーク「ピアノ協奏曲3番」、そのほかに、ラフマニノフ、ショパンなどのピアノ・コンチェルトをバックに流して読みました。そうすると臨場感があって、ただ読むよりも二倍も三倍も楽しめます。これはめったに経験できない充実した時間でした。

漫画っぽいところもあるし言葉の表現にヌルイところもあるのですが、言葉で音楽を表現することに挑戦した熱い小説です。但し、いちばん最後の優勝者のリストだけは、絶対に見てはいけません。興味がそがれます。著者はなぜこのリストを入れたのか。疑問です。三人は違ったタイプの才能を持つ天才だから、点数はつけにくいし、誰が優勝するかは最後まで秘密にしておきました。とはいえ、大人にも若者にもお薦めできる傑作です。

私はこれを読んでから、久しぶりに大好きなピアニスト、ワイセンベルクの世界にどっぷり浸りました。

